

お題「仲間」(連記) 谷ロミチ選

プリズムをお仲間にしてひかり出す

仲間の数年毎にへり喚きたい

お仲間と思っているが猫ばかり

良き仲間親しき友が良き連れに

同郷の集い関西弁が出る

いつも友が外れたボクへ声送る

女子会はよく食べ喋りよく笑う

クリスマス集まることがプレゼント

ありがたい一緒に飲める友がいる

安倍さんが居ればと悔やむ仲間たち

派閥長仲間を切って難逃れ

味方だとミスリ大敗関ヶ原

世話係ひとのことより我がことよ

きのう別れた友の訃報に言葉なし

又ひとり仲間旅立つ外は雨

一人遊び相手要らずの我が息子

秀 君はまだ覚えてますかあの歌を

軸 冒険の仲間求めて旅立つ日

お題「終わる」 小妻健一選

盛り上がりそのあとしぼむ最終回

エンディングノート書き終え五年経つ

最後の日満員になる百貨店

終わらない戦争子らは悲鳴上げ

エンドロール作曲家の名見届けて

無事終わる今日一日を感謝する

お餅つき終わる頃には息が合う

自分史の最後疑問符二つ三つ

終活にソバの実をより夕日落つ

焼イモ売りの声が聞こえて愚痴終わる

終活を終えて万端白寿過ぎ

終わったはずママの説教まだ続く

ボール投げ孫と始めてエンドレス

断捨離でダンス一棹ひとくぎり

秀 腹八分で終わる決意のバイキング

軸 争いが収まる前にまたひとつ

お題「ハガキ」 奥村義雄選

もう逢えぬ人の賀状が捨てられぬ

一枚のハガキ安心つれてくる

留学先へ毎日書いていたハガキ

エンピツの手書きは孫の年賀状

年賀状年に一度で縁つなく

肉筆のハガキに脱字誤字ばかり

年賀状直筆でかく心込め

喪中の報百歳超えがちらほらと

年賀出しほっとしている大みそか

絵ハガキに近くの印が押してある

喪中がき二十歳の顔を思い出し

下手でいい一筆欲しい年賀状

長寿国喪中ハガキも卒寿超え

なつかしい友のハガキで子にもどる

年一度生きているぞと来るハガキ

秀 過疎地から土の匂いのするハガキ

軸 読み返しまた読み直す喪の葉書

\*秀句の前四句が佳句、とのことです

お題「もやもや」(共選) 森里えいじ選

核心は記憶に無いとはぐらかし

詳細は調査中だと口揃え

お風呂場にせんたく物が幅きかす

あんな句が入選ボクの句はなんで

もの忘れ耳も遠いしどう生きる

六時すぎまだ半額がはってない

万博費小出しに増えていくばかり

スーパールのパート通勤メルセデス

憧れの人の名前が出てこない

もやもやをやつと治める酒五合

利用者は少数マイナ保険証

もやもやが胃カメラのんでスッキリと

カップルに挟まれ一人リンゴ飴

もやもやはキムチと炒めハイボール

秀 電話切るいつもと違う受け答え

軸 時々悩んでみたい人並みに

お題「もやもや」(共選) 勝部乃り子選

もやもやの世界の動き視界ゼロ

万博費小出しに増えていくばかり

霧の中足を見ている伊吹山

詳細は調査中だと口揃え

もやもやをやつと治める酒五合

スーパールのパート通勤メルセデス

もやもやが胃カメラのんでスッキリと

郁子

アキラ

純一

ちさと

乃り子

健一

えいじ

ちさと

英二

基弘

ひよこ

博文

基弘

千楽

義雄

健一

健一

健一

ちさと

アキラ

哲子

正清

郁子

英二

ちさと

幸男

郁子

純一

正清

正清

広子

英二

えいじ

博文

郁子

ミチ

健一

幸男

英二

純一

もの忘れ耳も遠いしどう生きる  
処理水にもやもや残る国の処理  
六時すぎまだ半額がはってない  
電話切るいつもと違う受け答え  
この人に言う事ええと何だっけ  
網休みもやもやしてる上位陣  
カッパルに挟まれ一人リンゴ飴  
秀 時々は悩んでみたい人並みに  
軸 見合いして断った彼超出世

哲子  
基弘  
正清  
英二  
ミチ  
基弘  
正清  
えいじ  
乃り子

歳のせい忠臣蔵に泣いている  
歯無くなりもう食べられぬ好きな肉  
クリスマス今は静かに外野席  
大谷くん子供に未来投げかける  
若い歌上手いか下手か分からない  
頑張るな今も心に師の言葉  
明と暗裏金議員と大谷さん

えいじ  
哲子  
健一

自由吟 野々村アキラ選 四句以内投句  
俺もいるぞと叫んでるウクライナ  
地獄ガザ泣き叫ぶ列なす親子  
蕾のままに花と散るタカラヅカ

千楽

飲み放題割勘分のお茶をのむ  
普通の日々が戻ったはずが又次が  
本かりて挟んだ葉お人柄  
友だちが一人できたと孫の笑み

乃り子

脱コロナ口紅二色買った秋  
小津映画心ほどけてエピソード

郁子

朝夕焼け色鮮やかに飾る雲  
インボイス弱者いじめる愚挙愚策  
裏道を捜す派閥の知恵袋  
新風を吹かせる程の党欲しい

基弘

いま地獄いっぱいなので天国へ  
我が心もやもや気分いつ晴れるも  
荒れ模様我が人生も終末期  
さあ書くぞハガキを持つも字を忘れ

博文

ジングルベル楽しむ子等の弾む声  
雪景色足跡付けて寝転んで  
衣替え調子狂わす寒暖差  
我を通す子にも言い訳言い分も

きよな

商談が済めばお互い虎同志  
肩叩く上司と昔組んだ肩  
背の低い兄が嫌がる背比べ  
コオロギを食品棚で見る不粹

義雄

とわの愛やつと気づいて棺の底  
重ね着の胸にゆっくりタツチする  
口紅をひいて舌なめ目を流す  
リフォームをしない柱のキズの跡

ちさと

幸せは好きを見つけた時に来る  
今日の運鏡の笑顔からもらう

広子

人の字が片方折れて五十年  
へんぺいの足がすっかり泣いている  
血管にラメの細工を入れてみる  
移住先居心地がよく墓もない

正清

良い景色素敵なかフェに癒される  
知らぬ本多すぎ恥じる本好きが  
洋装の母の着物を手放す日  
覗き込むメダカの鉢の薄氷

ひよこ  
ミチ

枯葉舞う繫いだ手だけ燃えていた  
さらばすばるよ我ら団塊応援歌  
山不作棲み分け悩む熊と人  
丁寧生きる自然薯掘るように

アキラ

身体中あちこち痛み元気です  
旨いものない奈良に住み半世紀  
人生の半分ぼーっと生きてきた  
米寿の友ランチも無理と電話切る

英二

勉強会 お題「夢」

☆戦争の子らが夢見る普通の日 ひとこ  
☆手にいっばい夢が届いたクリスマス 健一  
☆目が覚めてホッと一息怖い夢 健一  
まっとうな政治は夢か我が日本 アキラ  
夢枕母の微笑み懐かしく 純一  
昨夜見た夢の続きを又見たい 博文  
夢を見ず静かに寝たい年寄りには 博文  
抜け出せぬ炬燵の虜夢心地 基弘  
☆印は佳句3句 他は互選上位句 基弘

推薦十句 田中 薫選 句会結果掲載順

君はまだ覚えてますかあの歌を 英二  
焼イモ売りの声が聞こえて愚痴終わる 基弘  
もう逢えぬ人の賀状が捨てられぬ 広子  
読み返したまた読み直す喪の葉書 義雄  
もやもやはキムチと炒めハイボール 広子  
抜け出せぬ炬燵の虜夢心地 基弘  
商談が済めばお互い虎同志 義雄  
飲み放題割勘分のお茶をのむ 乃り子  
枯葉舞う繋いだ手だけ燃えていた アキラ  
丁寧生きる自然薯掘るように アキラ

自治連合会の文化クラブです

日頃思うことを、五七五で詠んでいます

新入会員歓迎 新会員向け勉強会実施中

メールでの投句だけでも大歓迎

入会金不要 月会費百円

お問い合わせ

\*お電話ください 資料持参します

原 広子 79・0061

野々村アキラ 090・6961・1292